

新しい治療法の紹介に関心を寄せる参加者

真城地区センター

風と心



「出前医療講演」にお伺いしました

脳卒中の治療全般について

胆沢病院から地域へ出向いての「出前医療講演」が、十一月一〇日(火)真城地区センターで行われ、地域住民ら五十五人が参加しました。

真城地区センターによる「真城地区健康まるごと講座」の一つとして、出前医療講演に伺ったもので、「脳卒中の治療全般」に関して」と題して、菊池脳神経外科長から、脳卒中とはどのような病気なのかや治療法全般について分かりやすく、会場から笑いをもらいながら講演を行いました。

今回、胆沢病院の血管撮影装置が、一〇月下旬に最新鋭の器械に更新され、これによって脳血管内治療など幅広い治療が可能となりました。

脳血管内治療は、脳梗塞やくも膜下出血など、脳の血管の病気を、血管の内側からカテーテルを使って治療するものです。これまで、当地域での治療は難しく、盛岡や仙台まで行かなければ受けられない特殊なもの



菊池脳神経外科長が治療法を紹介する

でしたが、この血管撮影装置の更新によって、脳血管障害に対する外科治療として実施することが可能になったものです。

菊池脳神経外科長からは、県内で、脳神経外科の医師が少ないこと、さらに脳血管治療専門医に至っては、わずか4人しかいないことなどが話されると、参加者は医師不足の実態に驚いた様子でした。

今回の講演では、参加者から「治療方法が新しくなり、細かく話しをしてもらえて大変ためになった」、「ユーモアたっぷりな話しがとてもよかった」、「明日は我が身なので、予防に気を付けたい」、「近くの病院で治療できることを聞き、とても気分が楽になった」などの感想が寄せられました。

今後、院内の救急体制や胆沢地区の救急体制を整えて、脳血管内治療を実施していくこととされています。

脳卒中のタイプは、大まかに①血管が詰まってブドウ糖や酸素が行き渡らなくなつて脳の細胞が死んでしまつ「脳梗塞」と、②血管が破れて起こる「頭蓋内出血」に分けられます。

▼さらに、脳梗塞は、ごく細い動脈が詰まる「ラクナ梗塞」、大きな動脈が詰まる「アテローム血栓性梗塞」、心臓の中にできた血の塊(血栓)がはがれて脳の動脈に流れ込んで起こる「心原性脳血栓症」に分けられます。▼頭蓋内出血は、脳の細い動脈が破れる「脳出血」と、脳の表面を走る大きな動脈にできたこぶが破れる「くも膜下出血」に分類されます。▼脳卒中を起こす危険因子として、まず高血圧、その他に糖尿病、高脂血症、肥満などがあります。▼また、危険因子となる生活習慣としては、塩分の取りすぎ、糖分の取りすぎ、喫煙、脂肪のとりすぎ、酒をのみすぎる、食べすぎ、運動不足、などがあげられています。